

TS（トータル・サティスファクション）を目指して M22

自己中心性の克服について

校長室担当より

私と同年代の方は、学ぶと言えば、教師の話すことや教科書に書いてあることを覚え、ドリルやサブノートの穴埋めや試験で定着を図るといったことが中心だった方は多いと思います。しかし、例えば私たちが教科書で学んだ歴史的な事実とされていたことも、実は事実ではなかったということがいくつも判明している中で、現在教科書に書いてあることがすべて正しいわけではありません。大人が教えることも、自分が育った時代の常識にとらわれていて、新しい時代や最先端の正しい情報に基づいたものになっていないこともあり得ます。間違った知識を無批判に覚えてしまうと、それは有害なものとなり、正しく考えることができなくなります。このことがまず私たち大人が押さえておくポイントです。

そもそも人は学ぶことを通じて、何をできるようにするのかという視点に立った場合、最も優先すべきは「自分で考える力」をつけること。教師から教えられたこと、教科書に書いてあることを無批判に受け入れる姿勢ではありません。もしそういう姿勢を学校で身に付けてしまうと、SNS で目にした内容をすぐに鵜呑みにしたり、少し考えればおかしいとわかることもそれが正しいかどうか判断できない人が増えていきます。

他人の意見に振り回されない「自分で考える力」を身に付けるためには、様々な他者の考えに耳を傾ける経験や、できるだけ多くの人と対話をすることが求められます。こうして自分とは異なる考えや価値観に触れ、自分が世界の中心ではないということを理解することが必要です。実は、こういう過程を経ることで、子どもたちは自己中心性を克服していくのです。

心理学者のアドラー氏は、「教科を教えるのではなく、教科で教える」と言っています。何かを学ぶときには、教科の内容だけでなく学びを通して他のことを学ぶことが必要なのです。校種に関係なく学校という現場においては、生活面の指導も含め、「教科での授業こそが肝」となります。美鈴が丘高校では、この意味でも「授業改善」を今後進めていくことで、「人間性の育成」を進めていきます。（令和7年9月1日）